

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 穴生 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

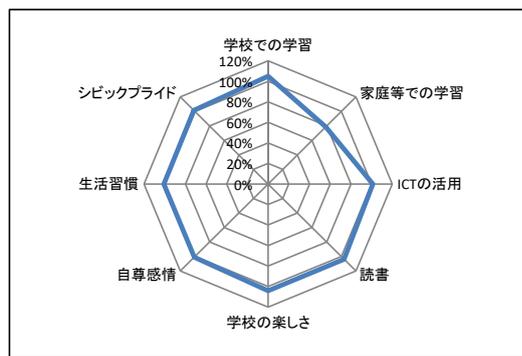
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと・聞くこと」については、全国平均を大きく上回っているものの、「書くこと」「読むこと」については全国平均を少し下回っている。特に、「書くこと」の文章を見直し、整える問題に課題がある。	全国平均正答率との比較	上回っている
	よくできた問題	2二 聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する。		
	努力が必要な問題	4一 手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する。		

数学	全体的な傾向や特徴など	「数と式」の問題に関しては、全国平均を上回っている。しかし、「図形」「関数」「データの活用」の問題に関しては、全国平均を下回っており、特に「データの活用」の問題に課題がある。	全国平均正答率との比較	下回っている
	よくできた問題	6（3）連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する。		
	努力が必要な問題	4 一次関数 $y=6x+5$ について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求める。		

理科	全体的な傾向や特徴など	「粒子」を柱とする領域の問題を得意としており、どの問題においても全国平均を上回っている。また、どの領域においても記述式の問題の正答率が非常に高い。	全国平均正答率との比較	上回っている
	よくできた問題	1（6）水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する。		
	努力が必要な問題	1（1）電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する。		

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「自分には、よいところがあると思うか」との問いに対して約9割の生徒が肯定的に回答しており、全国平均よりも高く、自尊感情の醸成が見られる。 ・「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいるか」や「友達関係に満足しているか」などの友人関係に関する質問への肯定的回答が高い。今後も道徳や特別活動、学校行事などを通してお互いのよさを認め合い、自己有用感を高められるような工夫を継続しておこなっていく。 ・家庭等での学習時間が少ないという課題に関しては、家庭学習の大切さを継続して伝えていくとともに、主体性をもって学習に臨むことができるように授業改善にも努めていく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

国語では文章の構造を理解し、文章を正しく整えることができるようにするとともに、記述の仕方について重点的に授業で取り上げていく。また、数学では関数とデータの活用方法について、理科ではエネルギーの領域や生命の領域の基本事項についての学習機会を充実させていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

日々の授業において、復習の重要性や家庭学習の必要性について伝えていく。また、家庭学習において積極的にAIドリルの活用を推進し、ICTを活用した家庭学習の習慣化を図っていく。